

稲作管理情報（間断かん水・草刈り）

令和7年6月吉日
高岡市農業協同組合
高岡農林振興センター

1 水稻の生育状況

・6月10日頃のコシヒカリの生育は、平年に比べ、草丈・茎数・葉色は並ですが、葉令は0.2葉遅れています。

品種		草丈 cm	茎数		葉令	葉色	田植日
			本/株	本/m ²			
てんたかく (早生)	本年	33.3	19.2	423	9.1	4.4	4/30
	昨年	30.0	17.1	334	8.5	4.7	5/3
	平年	33.5	22.4	454	9.1	4.5	5/3
コシヒカリ (中生)	本年	30.1	13.2	274	7.4	4.4	5/11
	昨年	29.2	12.2	250	7.6	4.2	5/13
	平年	30.1	13.9	286	7.6	4.3	5/13
富富富 (中生)	本年	22.0	9.7	215	6.4	4.4	5/18
	昨年	24.2	6.9	134	5.9	4.2	5/16
	近年	28.2	12.3	261	7.0	4.4	5/14
てんこもり (晩生)	本年	25.9	18.4	375	8.9	4.4	4/29
	昨年	26.9	27.3	500	9.4	4.5	4/29
	平年	28.5	25.0	461	9.1	4.5	5/3

※JA 高岡管内生育調査ほ場 6/10 現在

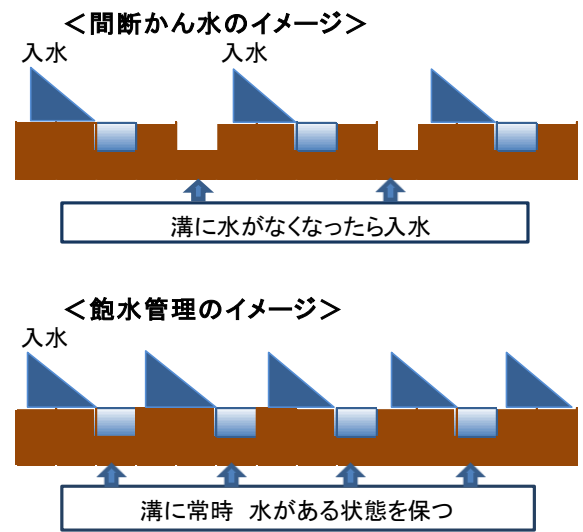
営農記録ノートを活用しましょう

・てんたかくの穂肥と防除については、「営農記録ノート」P30、32を確認し、作業を行ってください。

・農作業を行ったら、P29、33の「農作業のあしあと」にしっかりと記録しておきましょう。

2 中干し後の水管理 ～中干し後は間断かん水を行いましょう！～

- ・中干しは、一度に強く干し上げず、「田面に小さな亀裂が入る程度」の田干しを繰り返し、地耐力を高めましょう。
- ・中干し後は、間断かん水を行い、幼穂形成期頃（コシヒカリは7月10日頃）までに「足跡の深さ3cm程度」まで田面を固めましょう。間断かん水中は、田面を乾かしすぎないように注意しましょう。
- ・幼穂形成期頃（コシヒカリは7月10日頃）から出穂期は、最も多くの水分が必要となりますので、足跡に水が残る程度の飽水管理を行いましょう。



3 カメムシ対策 ～越冬したカメムシが多いので、草刈りで生息場所を減らしましょう！～

- (1)畦畔等の草刈り
- ・今後、気温の上昇に伴い発生増加が見込まれます。出穂前後に草刈りを行うと、カメムシ類を水田内に追い込むことになるので、7月6日頃までに、畦畔等の草刈りを徹底しましょう。その後は、イネ科雑草の穂が出ないように管理しましょう。

草刈り運動期間 ： 6月27日（金）～7月6日（日）
県下一斉草刈り日 ： 6月28日（土）～6月29日（日）



カメムシ類による斑点米

(2)麦の刈取あとほ場の管理

- ・放置しておくと、雑草が発生しカメムシの生息地となるため、緑肥等を作付けしましょう。

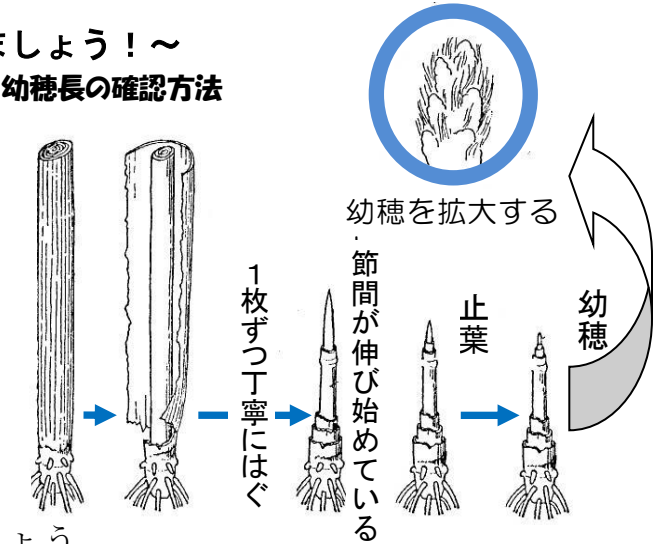
・保全管理とする場合は、耕起を行い、雑草を土中に埋めましょう。その後も雑草が繁茂しないよう管理を行いましょう。

4 「てんたかく」の穂肥 ～必ず幼穂長を確認しましょう！～

幼穂長の確認方法

(1) 基肥一発肥料(エコ早生専用)の場合

- ・原則、追肥はしない。ただし、6月末になっても葉色が極端に淡い場合（4.0未満のとき）は、速やかに追肥3号を7kg/10a程度施用しましょう。



(2) 分施体系の場合

- ・1回目の穂肥は幼穂長1mmの時期に遅れずに施用しましょう。
- ・2回目は1回目の10日後に下の表を目安に施用してください。

表 土壌区別の施肥量の目安（分施）

	施用時期	追肥3号 (kg/10a)		
		砂壤土	壤土（洪積含む）	粘質土
1回目	幼穂長が1mm 葉色（葉色板）4.0～4.5	10	10	10
2回目	1回目から10日後	15	12	10

- ・葉色が濃い(4.5以上)かつ茎数過剰（30本/株）の場合
⇒1回目穂肥を2～3日遅らせましょう
- ・砂壤土で葉色が淡い（4.0未満）場合
⇒1回目穂肥に追肥3号を13kg/10a程度施用しましょう

5 紋枯病の防除（随時防除としての対策）～7月上旬に発生状況を確認しましょう～

- ・前年発生が多かったほ場や過繁茂のほ場では紋枯病が発生しやすいため、発生が見られたら随時防除を実施しましょう。

粉剤の場合は・・・
モンカットファイン粉剤 20DL 4kg/10a
散布時期：出穂14日前頃（早生穂ばらみ期）
使用時期：収穫14日前まで

粒剤の場合は・・・
モンガリット1キロ粒剤 1～1.3kg/10a
散布時期：出穂2～3週間前（遅れずに散布する）
使用時期：収穫30日前まで

～農作業中の事故防止のため、熱中症対策をしましょう～

- ①日中の気温の高い時間帯を外して作業を行う。
- ②こまめな休憩、水分・塩分補給を行う。
- ③できるだけ複数名で作業を行い、体調に異常がないか確認し合う。

